

総合計画審議会の審議状況について（第7回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

第3次総合計画 前期基本計画(素案)について【まとめ】

【開催概要】

第7回袋井市総合計画審議会を、以下のとおり開催しました。第7回の意見交換では、将来人口推計、財政見通し、将来都市構造について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和7年3月25日(火)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 報告事項 (1) 基本計画策定スケジュールの延伸について 4 議事 (1) 将来都市構造について (2) 財政見通しについて (3) 将来都市構造について 5 事務連絡 6 閉会



【意見交換での主な意見】

■将来人口推計について

- 出生率の減少が社人研推計よりも早まっている。人口を維持するためには、人口を留め置くという考え方も重要であり、地域の企業誘致や大学との連携が求められる。また、外国人の市民化も人口増加には欠かせない。
- 外国人の増加は人口増加に寄与しているが、メリットとデメリットがある。メリットは若者の人口増加だが、デメリットとして地域との共生に関する社会的コストが存在する。外国人が増えることによるトラブルを避けるためには、地域で交流の場を設けるなど、丁寧な共生社会を構築していく必要がある。
- 全国的に出生率が低下するなか、合計特殊出生率1.84を目指すことは相当高い目標である。社会的な変化が求められる一方、市としても掲げたからにはそれなりの取り組みを進めていく必要がある。
- 総人口は今がちょうどピークにあるように見える。また人口構造については変化しつつあるが、将来の施策にどのような影響をあたえるかなど、踏み込んだ分析が必要である。

■財政見通しについて

- 人件費については、DXを進めながら着実に削減していく必要がある。
- 「実質単年度収支を2年連続で赤字にしない」という目標に対して経費を削減することも重要だが、削減だけでも先が苦しいので、将来に必要な投資とはしっかり切り分けて、取り組んでいく必要がある。
- 財政見通しは均衡しているように見えるが、袋井市が今後進める事業にどれだけ財源を投入できるかを明確に示す必要がある。
- 財政の健全化を過度に追求すると、将来的な投資が難しくなる懸念がある。また、審議会での議論が投資的経費にどのように影響するのかはよく議論する必要がある。
- DXによる業務効率化や生成AIの活用などを踏まえた見通しになっていないように思われる。人員削減を急ぐわけではないが、業務改善についても今後の方針を明らかにしていく必要がある。

■将来都市構造について

- 人口減少が進むと自然との共存が難しくなり、荒廃するリスクがある。このため、都市構造を考える上では自然と人の共生を考慮する必要がある。
- 現在、自治体ではシステム標準化が進んでおり、これは今後の合併を見据えている。このため、都市計画においても周辺市町との連携が重要であり、周辺市町と議論して全体的なデザインを検討していく必要がある。
- 地域拠点や集落拠点に関する議論で、幼稚園、こども園、小・中学校の重要性が触れられていない点が懸念される。地域や企業が学校とつながりたいという声があったり、学校が地域の力を求めているといった声がある。また、学校を拠点に地域が形成されてきたことなど、重要な要素であることから、これらの視点を取り入れて検討していく必要がある。